

# 神戸港の移り変わり

## ◆神戸(兵庫)港の開港

江戸時代末期、初代米総領事ハリスに迫られた江戸幕府は、日米修好通商条約などに調印し、函館（箱館）、横浜（神奈川）、長崎、新潟、神戸（兵庫）の五つの港を開くことを約束し、すぐにイギリス、オランダ、ロシア、フランスとも同様の条約（安政の五箇国条約）が結ばれました。幕府が世界に神戸（兵庫）開港を約束した瞬間です。

この条約をもとに、1868年1月1日（慶応3年12月7日）に神戸（兵庫）港は外国に開かれました。



海から眺めた開港当時の神戸港〔神戸市立博物館提供〕



開港当時の神戸港〔神戸市立博物館提供〕

神戸（兵庫）港は、和田岬が偏西風を遮断し、波が静かで水深は深く、船舶が安全に停泊できる港でしたが、当時はまだ栈橋や岸壁といった施設はほとんどありませんでした。

## ◆近代港湾の整備

大正時代、神戸港の貿易額は全国の約4割を占め、特に輸入額は日本一でした。港の造成も進み1921年（大正10年）には「くし型」の新港第1突堤から第3突堤が完成し、近代的な港としての第一歩を踏み出しました。



神戸港の沿岸利用調査図（大正9年）  
〔「神戸税関120年のあゆみ」より〕



修築となった新港突堤（明治40年着工、大正10年竣工）  
〔「神戸税関120年のあゆみ」より〕

## ◆コンテナ化

港湾の近代化が進み、1967年（昭和42年）には、わが国初のコンテナターミナルを有する摩耶埠頭が完成しました。本格的なコンテナ時代に対応するため、1966年（昭和41年）からポートアイランドの埋立てを開始、続いて1972年（昭和47年）から六甲アイランドの埋立てが始まりました。



昭和41年当時の神戸港全景  
〔神戸市みなと総局提供〕



ポートアイランドの埋立て（昭和41年着工、  
昭和45年にコンテナバース第1号が完成）  
〔神戸市みなと総局提供〕

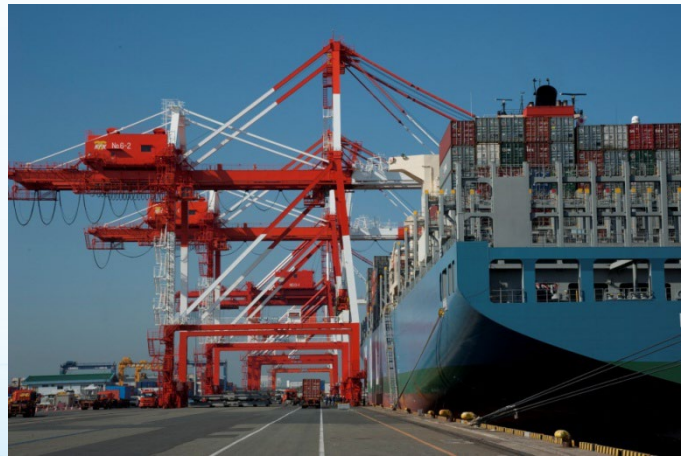
## ◆国際戦略港湾・阪神港

1981年（昭和56年）にポートアイランドが竣工、続いて1992年（平成4年）に六甲アイランドが竣工した神戸港は、1995年（平成7年）に発生した阪神・淡路大震災で壊滅的な被害を受けましたが、急ピッチで復旧工事が行われ1997年（平成9年）には新生神戸港として全面復旧しました。

その後、2005年（平成17年）にポートアイランドの第2期工事が竣工した神戸港は、2011年（平成23年）には大阪港とともに阪神港として、日本の港湾の国際競争力の強化を図ることを目的とした国際戦略港湾に位置づけられ現在に至っています。



近年の神戸港全景〔神戸市みなと総局提供〕



ポートアイランド第2期工事区域にあるコンテナバース